

普及活動情勢報告（平成29年1月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

キュウリの増収に向けて・・・キュウリ勉強会の開催・・・



12月20日に黒潮町、12月26日に土佐清水市にて環境制御機器導入農家のほ場で勉強会を開催し、黒潮町5名、土佐清水市9名の生産者の参加がありました。

農業改良普及課からは、炭酸ガス発生装置導入ほ場の生育調査経過と農業担い手育成センターでの試験に関する情報を提供しました。

ほ場主から耕種概要を説明してもらい、参加者全員で生育状況の評価基準について意見を交わしました。生産者によって評価基準や樹勢の強弱の判断が異なっていることに気づいてもらう有意義な勉強会となりました。また女性の参加もあり、今後の活発な活動が期待されます。

農業改良普及課は、来月以降も定期的に勉強会を開催し、キュウリの増収・品質向上に努めていきます。

子ども達に農業を知ってもらいたい！・・・宿毛4Hクラブ出前授業・・・



1月17日、宿毛4Hクラブは、小筑紫小学校5年生10名を対象に出前授業を行いました。クラブ員2名と宿毛市の洋菓子店パティシエが講師となり、ブンタンの栽培について授業を行った後、調理実習（ブンタンとイチゴのパバロア）を行いました。

子ども達から、「ブンタンを育てる中で一番大変な作業は何か」等、非常に多くの質問がありました。また、クラブ員からは「子ども達からどんな質問があるか緊張したが、農業のことを知ってもらえて嬉しい。」等の声がありました。

農業改良普及課は、子ども達への農業理解を深めるため、4Hクラブの地域貢献活動を支援していきます。

法人の雇用と決算について研修・・・幡多地域集落営農法人連絡協議会・・・



1月16日、中村合同庁舎で幡多地域集落営農法人連絡協議会を開催し、9法人12名・関係機関併せて25名の参加がありました。

農業改良普及課からは、決算書を使った法人総会資料の作成方法について説明し、社労士と税理士からは、法人が雇用する時の留意点や決算書・経営分析の指標について説明してもらいました。

参加者からは、「労災の加入窓口が知りたい」「余剰金の扱いはどうすればいいのか」等の質問があり、情報共有が図られました。

農業改良普及課は、法人の決算・実績を確認し、次年度の取り組みを支援します。

「おおきみ」のブランド化に向けて・・・おおきみ部会現地検討会・・・



1月11日、JA高知はた「おおきみ」部会は目慣らし会と現地検討会を開催し、7名の生産者が参加しました。

農業改良普及課では、10月定植の推進や樹勢の強い「おおきみ」に対する肥培管理等、品種特性に応じた栽培指導を徹底してきました。その結果、現在のところ順調な生育・出荷につながっており、徐々に栽培のポイントが把握されてきました。

今後は、市場・仲卸・フルーツショップとの販売会議を行い、より高級志向に対応出来る産地を目指していきます。

加工品「鯖ねえ」誕生・・・6次産業化支援チーム（佐賀北部食部会）・・・



12月21日、6次産業化推進事業を活用し、商品開発を行ってきた黒潮町佐賀北部活性化推進協議会食部会が土佐佐賀温泉「こぶしのさと」で販売を開始しました。

同部会の手造り味噌や鯖、シメジ、ユズ果汁等同町の特産物を使用したおかず味噌「鯖ねえ」は、ご飯にかけたり、調味料としても活用できます。

食部会のメンバーからは、「商品になるまで時間がかかったが販売できるようになって良かった。」「今後は、反響を見ながら販売先を増やしていきたい。」等の声がありました。

農業改良普及課は、今後もアドバイザーと連携し、販売拡大に向けて支援を行います。

大月ふれあい市へ出品増を目指して・・・落葉果樹剪定講習会・・・



1月13日、ふれあいパーク・大月において落葉果樹の剪定講習会を行い、生産者21名が参加しました。

農業改良普及課は、まず落葉果樹の特性と結果習性について講義した後、現場で実技講習を行いました。特に、品質・収量の向上のため地に足を付けて管理できる樹高にすることを重点的に指導しました。

参加者からは、「思いきって切り下げてもいいんだ」、「切除カ所や空かす間隔が分かった。」等の声があり、栽培意欲を高めることが出来ました。

農業改良普及課は、今後も農家の収入増加を図るためこのような協議会の活動を支援して行きます。



土佐文旦の収量品質の向上に向けて・・・低樹高化の実証ほ設置・・・



1月5日、宿毛市宇須々木で、低樹高栽培を普及させるための実証ほを設置しました。

農業改良普及課は、J A 宿毛支所文旦研究部会が低樹高化の普及を決定したことを受け、低樹高化にした1年目の収穫量減少の影響を確認するため、本年度の着果数調査を行いました。

J A 担当者から、「実際に1果ずつ調査してみると、着果数が多く小玉果数が多いことが分かった」、「実証結果に期待する」という声が聞かれました。

農業改良普及課は、J A 文旦部会の目標達成に向け、今後定期的な調査と講習会を開催していきます。